

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年6月29日
【事業年度】	第76期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
【会社名】	日電工業株式会社
【英訳名】	Nichiden Kogyo Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 藤 塚 英 明
【本店の所在の場所】	神奈川県藤沢市小塚126番地
【電話番号】	0466(22)8151(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 齊 木 光 博
【最寄りの連絡場所】	神奈川県藤沢市小塚126番地
【電話番号】	0466(22)8151(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 齊 木 光 博
【縦覧に供する場所】	該当なし

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高 (千円)	2,603,348	2,456,754	1,957,184	2,324,638	2,339,521
経常利益又は経常損失 (千円)	22,450	38,635	92,308	44,474	38,411
当期純利益又は当期純損失 (千円)	36,842	46,768	92,525	41,906	30,967
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000
発行済株式総数 (株)	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000
純資産額 (千円)	5,280,892	5,295,388	5,288,484	5,302,557	5,313,078
総資産額 (千円)	5,985,066	5,839,162	5,736,891	5,894,716	5,804,030
1株当たり純資産額 (円)	1,100.18	1,103.21	1,101.76	1,104.69	1,106.89
1株当たり配当額 (円)	3	3	3	3	3
(内1株当たり中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 (円)	7.68	9.74	19.27	8.73	6.45
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	88.2	90.7	92.2	90.0	91.5
自己資本利益率 (%)	0.7	0.9		0.8	0.6
株価収益率 (倍)					
配当性向 (%)	39.1	30.8		34.4	46.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	244,655	232,775	211,046	263,857	134,471
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	943,242	116,518	298,281	71,591	69,054
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	28,188	29,316	26,690	24,324	22,468
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,733,954	1,820,895	2,303,532	2,471,474	2,514,422
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (名)	81 (47)	78 (40)	80 (37)	76 (33)	82 (37)

- (注) 1 当社は連結財務諸表を作成していないため「連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移」については、記載していない。
- 2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していない。
- 3 第74期の自己資本利益率及び配当性向については、当期純損失を計上しているため記載していない。
- 4 当社は非上場である為、株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価、最低株価を記載していない。

2 【沿革】

- 1948年7月 日電工業株式会社を東京都品川区に設立。冷凍、空調用等の自動機器の製造および販売を開始。
- 1960年8月 栃木県宇都宮市に宇都宮製作所を新設。
- 1961年11月 米国ランコ社と合併会社日電ランコ株式会社を設立。
これに関連して宇都宮製作所の資産を日電ランコ社に譲渡。
- 1963年5月 神奈川県藤沢市に大船工場を新設。
- 1963年6月 東京証券取引所市場第2部に上場。
- 1964年10月 東京地方裁判所民事第8部に会社更生法適用を申請。
- 1965年1月 東京証券取引所第2部上場廃止。会社更生法に基づく更生手続開始決定の認可を受ける。
- 1970年7月 東京地方裁判所に会社更生手続終結を申請し認可を受ける。
- 1972年2月 大阪市に大阪支店を、福岡市に福岡営業所を開設。
- 1983年4月 本社を東京都品川区より神奈川県藤沢市に移転。
- 1993年4月 旧工場を閉鎖し、旧工場隣接地(神奈川県藤沢市)に本社工場を建設移転。
- 2003年9月 福岡営業所を閉鎖。
- 2004年9月 営業部を東京都中央区に移転。
- 2016年7月 営業部を東京都中央区より神奈川県藤沢市に移転。

3 【事業の内容】

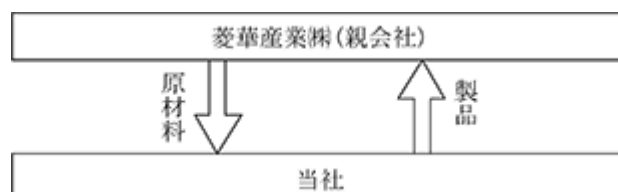
当社の事業は環境空気調和(冷暖房)、工業用空気調和、冷凍機を主とする化学工業用設備等、あるいは商業用、家庭用機器類の自動機器の製造、販売であり、その主なるものは次のとおりである。

なお、当社は自動制御機器製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略している。

機種	製品の内容
電磁弁	通電すると電磁力によって流体の通路を開く弁で、流体の流量の加減、流方向の変換、危険防止等を行い自動装置の操作機として広い応用範囲を持つ。冷媒、水、蒸気、ガス、電気、油等の流体の種類、流量の大きさにより極めて多種のものがある。
膨張弁	冷凍装置の高圧液冷媒を絞り膨張させ、低圧とし蒸発器に送り込み蒸発ガス化させて周囲のものを冷却させるための弁で、冷凍装置に不可欠のものである。使用する冷媒の種類、冷凍能力の大きさにより多くの種類がある。
温・湿度調節器	温度調節器は温度の上下により、湿度調節器は湿度の上下により、スイッチを入切あるいは電気抵抗変化を与えて、電磁弁やコントロールバルブを動かす調節器で空調や各種工業設備において温度あるいは湿度を一定に保つために使用され、用途により多くの種類がある。
電動弁	コントロールバルブ(コントロールモーターを組込んだ弁で用途により水、蒸気等の流量をコントローラーの信号により比例制御又はON OFF制御をし、大きさにより各種ある。)電動ボールバルブ(小型モーターを組込んだ弁で、弁部はボール形式になっており、所定の回転角度により流体のON OFF制御を行なうもので大きさにより各種ある。)
手動弁	パッキド弁(冷凍機ユニットに取付けられる手動弁で、ハンドル軸封部にパッキングを用い、その漏洩は袋ナットにより封じている。冷凍機メーカー毎に形状が異なる。)パックス弁(冷凍装置の冷媒配管に用いられ、ハンドル軸封部にパッキングを用いずベローズにより漏洩を皆無とする構造の手動弁で管継手サイズは多くの種類がある。)
自動弁	自動給水弁(圧力や温度の上下により水の流路を自動的に開閉する弁で、主として冷凍機用の冷却水に使用される。)
その他	コントロールモーター(温度、湿度、あるいは圧力の調節器により操作されるモーターで、弁やダンパー等の開閉用動力として使用され単に弁等の全開、全閉だけでなく適度の温度に保つ動作 比例動作 が出来、各種の自動装置に利用される。)その他、自動装置に必要な手動弁、スイッチ類がある。

当社は、菱華産業㈱の子会社であり(当社議決権の51.26%を所有)、同社から原材料を購入し、同社へ当社製品を販売している。

以上に述べた事項の概要図は次のとおりである。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合(%)	
(親会社) 菱華産業(株)	東京都 中央区	100,000	合成樹脂原料 および製品等 の販売		51.26	当社製品の販売および原 材料の購入 役員の兼任2名

(注) 1 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はない。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2023年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
82(37)	42.6	16.5	4,910

- (注) 1 従業員は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載している。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいる。
3 当社は、自動制御機器製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略している。

(2) 労働組合の状況

労使関係については、特に記載すべき事項はない。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社の経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

次期以降の見通しと致しましては、内需を中心とした緩やかな景気回復の期待感はあるものの、電力料金などの光熱費や原材料価格の高止まりが継続し、当社の収益にマイナス影響を及ぼすことが予想されます。

こうした厳しい環境の下、当社と致しましては安定した黒字体質の定着が最重要課題と認識し、3期連続黒字に向けて引き続き事業構造改革を推し進めると共に、当社の強みを活かした高付加価値商品・サービスの開発、販売を更に強化し、業績の向上に邁進して参る所存です。

そのためにも、取引先から頼られる製品開発力、信頼される品質の維持、取引先ニーズへの迅速な対応に社内一丸となって注力することで、安定した黒字体質の実現を図りたいと思っております。

当社の経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標は売上高及び営業利益であります。
2024年3月期の目標値は売上高2,480百万円、営業利益50百万円であります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社のコーポレートガバナンスの中にはサステナビリティに対する考えも含まれており、環境問題への課題が特に重要と認識し、環境・社会・ガバナンスを重視した取り組みを行っております。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) ガバナンス

当社を取り巻く事業環境や社会課題に対応し安定的な成長を持続させるため、企業価値の向上に繋がる取り組みを進めることが重要な経営課題の一つであると認識し、経営計画等を策定し取締役会を中心に体制を構築しております。

(2) リスク管理

当社は各部門においてリスクの評価と管理を行っております。特に環境面については、環境に配慮した企業への成長を目指し、ヘリウムガス再利用装置などの各種産業装置や完成品ユニットの開発などに継続的に取り組んで参ります。

[人的資本、多様性の取組]

(1) 戦略

当社は社員が多くの仕事に携わり、能力を発揮出来るよう定期的なジョブローテーションを実施しています。また採用活動時に男女不問や文理不問を掲げ、女性の採用に積極的に取り組んでいるほか、社員の要望事項などを精査して女性が働きやすいように福利厚生面の見直しも継続的に実施しています。

今後も引き続き多様性の確保に向けた施策に取り組んで参る所存です。

(2) 指標および目標

ダイバーシティ経営の推進

主な戦略	指標	目標値 (2025年度)	実績 (当事業年度)
女性活躍推進	正社員に占める女性比率	15%以上	11.0%

3 【事業等のリスク】

経営者が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があることと認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

(1) 原材料価格の変動リスク

当社の各種バルブ製品の主要原材料である黄銅棒、黄銅鍛造、銅管等の価格は市況を反映し変動を繰返しております。これらの市場価格が大きく変動した場合には当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 品質リスク

当社はISO9001認証を取得し、全ての製品について万全の品質管理に注力し、製造物責任賠償保険にも加入し

ておりますが、保険でカバーできない予期せぬ重大な品質クレームが発生した場合には当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 自然災害について

当社は、工場が地震、台風等の大規模な自然災害が発生した場合に備えて、防災マニュアルに基づき対策を行っております。しかし、想定を上回る規模で自然災害が発生した場合、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(経営成績等の状況の概要)

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策が徐々に緩和されたことにより、経済活動が正常化に向かい、景気は緩やかながら持ち直しの動きが見られました。一方で、世界的な金融引き締めによる円安の進行やロシアによるウクライナ侵攻の長期化、資源価格や原材料価格の高騰など先行きの不透明感が拭えない状況が続きました。

年明け後の2023年1～3月期の実質GDP成長率速報値は前期比プラス0.4%（年率換算プラス1.6%）と3四半期ぶりのプラス成長となりました。

新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和され、旅行や外出などの個人消費が好調であったほか、設備投資が増加したのが要因です。一方で、欧米や中国の景気減速で輸出はマイナスとなり、全体の成長率を押し下げました。

今後については、海外経済の減速による下振れリスクなど先行き不透明感はあるものの、個人消費のもう一段の伸びや設備投資の回復など内需主導の緩やかな回復が期待されます。

斯かる経済状況下、当社の主力である空調業界では、主力の業務用パッケージエアコンが出荷ベースで前年同期比微増で推移しました。当社も拡販に鋭意努力した結果、販売面では売上高2,339百万円の実績となり、前年同期比14百万円の増収となりました。

収益面におきましては、仕入単価の上昇や電力料金の高騰という厳しい環境の中で高付加価値商品への販売注力や販売単価の値上げ等により営業利益24百万円と2期連続の黒字を確保しました。

営業外損益及び特別損益計上後、最終当期純利益は30百万円の利益計上となりました。

資産は、前期末に比べ90百万円減少し、5,804百万円となりました。

負債は、前期末に比べ101百万円減少し、490百万円となりました。

純資産は、前期末に比べ10百万円増加し、5,313百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物の期末残高2,514,422千円は前期末と比べ42,948千円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは税引前当期純利益38,049千円、減価償却費182,634千円、売上債権の減少80,536千円に対し、棚卸資産の増加64,405千円、仕入債務の減少74,120千円等により134,471千円と前年同期間に比べ129,386千円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得による支出999,941千円、有形及び無形固定資産の取得による支出66,685千円等に対し、有価証券の償還による収入999,941千円等により69,054千円と前年同期比2,537千円の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローはリース債務の返済による支出8,082千円、配当金の支払額14,386千円により22,468千円と前年同期比1,855千円の増加となりました。

(生産、受注及び販売の状況)

当社は、自動制御機器製造販売事業の単一セグメントのため、生産、受注及び販売実績については、種類別に記載しております。

(1) 生産実績

品名	生産高(千円)	前年同期比(%)
電磁弁	1,694,678	106.60
膨張弁	5,792	91.27
電動弁	154,147	120.48
手動弁	107,235	81.47
自動弁	192,541	94.84
その他	26,119	149.09
計	2,180,515	105.03

(注) 1 金額は標準販売価格による。
2 生産高には改造生産分を含まない。

(2) 受注実績

品名	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
電磁弁	1,572,496	97.46	206,433	77.98
膨張弁	6,666	81.11	358	37.53
電動弁	138,889	101.23	12,044	98.69
手動弁	96,120	74.65	2,348	13.17
自動弁	191,598	96.22	18,456	84.24
その他	273,177	115.61	51,941	150.41
合計	2,278,948	98.10	291,582	82.80

(注) 金額は販売価格による。

(3) 販売実績

品名	販売高(千円)	前年同期比(%)
電磁弁	1,630,783	100.87
膨張弁	7,263	86.56
電動弁	139,049	100.24
手動弁	111,604	84.75
自動弁	195,052	95.78
その他	255,767	113.44
合計	2,339,521	100.64

(注) 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前事業年度		当事業年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
日立ジョンソンコントロールズ空調(株)	263,456	11.33	310,585	13.28
(株)カントー	200,513	8.63	244,418	10.45

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次の通りであります。

(1) 財政状態の分析

(資産、負債及び純資産の状況)

当事業年度の資産の部では、流動資産全体で前期末比27,951千円増加いたしました。

主な内容は、現金預金42,948千円増加、棚卸資産64,405千円増加、電子記録債権70,731千円減少などであり
ます。

固定資産は前期末比118,636千円減少いたしました。

主な内容は、有形固定資産で104,443千円減少、投資その他の資産で9,650千円減少であります。

総資産は前期末比90,685千円減少し、5,804,030千円となりました。

負債の部につきましては、流動負債全体で前期末比84,019千円減少いたしました。

主な内容は電子記録債務38,559千円減少、買掛金37,679千円減少などであります。

固定負債は前期末比17,186千円減少いたしました。

主な内容は繰延税金負債6,758千円減少、役員退職慰労引当金5,908千円減少であります。

負債合計では前期末と比較して101,205千円減少して490,952千円となりました。

純資産の部では、繰越利益剰余金が増加し株主資本は16,567千円増加、その他有価証券評価差額金は6,046千
円減少しました。

その結果、純資産合計は前期末と比較して10,520千円増加し、5,313,078千円となり、自己資本比率は91.5%
となりました。

(2) 経営成績の分析

(売上高及び利益の状況)

当事業年度の売上高は2,339,521千円と前年比14,882千円の増収となりました。

利益面では営業利益24,466千円の黒字を計上し、前年比6,292千円の減益となりました。

要因は、受注回復による売上増収や価格改定などに努めた一方で、原材料価格や電力料金などの高騰によりコ
スト負担が増加したことによるものです。

また、営業外損益及び特別損益計上後、税引前当期純利益38,049千円となり、法人税、住民税及び事業税並び
に法人税等調整額を計上した結果、最終当期純利益は30,967千円となりました。

当社の経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」に記
載のとおりであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当社は、健全な財務バランスを重視した経営に努めております。

キャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及
びキャッシュ・フローの状況の分析 (経営成績等の状況の概要) (2) キャッシュ・フローの状況」に記載して
おります。

当社の資本の財源及び資金の流動性につきましては、次のとおりです。

当社の運転資金需要のうち主なものは、原材料の仕入のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の費用であり
ます。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

運転資金及び投資資金については、主として営業活動から得られるキャッシュ・フローを源泉とする内部資金を
基本としております。

当社は、事業運営上必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

なお、当期末における有利子負債の残高は5,825千円となっております。また、当期末における現金及び現金同等
物の残高は2,514,422千円となっております。

(4)重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。

財務諸表の作成に際しては、決算日における資産・負債の報告数値及び会計年度における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りは、過去の実績や当社を取り巻く環境等に応じて合理的と考えられる方法により計上しておりますが、見積り特有の不確実性があるために実際の結果は異なる場合があります。

当社の財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 2 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(重要な会計方針)」に記載しておりますが、特に以下の会計方針が財務諸表作成における重要な見積りの判断等に影響を及ぼすと考えております。

なお、以下の見積りの判断に、新型コロナウイルス感染症に伴う重要な影響はありません。

a. 繰延税金資産

当社は、繰延税金資産について、その回収可能性を考慮して、評価性引当額を計上しております。評価性引当額を計上する際には、将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積額が減少した場合は繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

(5)目標とする経営指標の達成状況

当社は、売上高及び営業利益を経営における重要指標と位置づけております。

	2023年3月期目標	2023年3月期実績	目標比
売上高(千円)	2,360,000	2,339,521	20,478 (0.9%)
営業利益(千円)	56,000	24,466	31,533 (56.3%)

5 【経営上の重要な契約等】

特記すべきものはありません。

6 【研究開発活動】

新規受注に先立ち、取引先への試作品を製作するにあたり、電磁弁等に関する研究開発活動を行っております。

なお、当社は自動制御機器製造販売事業の単一セグメントのため、セグメント別の記載は省略しております。

当事業年度における研究開発費の金額は25,965千円となっております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

特記すべきものはありません。

2 【主要な設備の状況】

当社は、国内に本社工場及び1ヶ所の支店を有しており、これらのうち、主要な設備は以下のとおりです。

2023年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
		建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社工場 (神奈川県藤沢市)	本社機能 事務業務 販売業務 生産設備	591,303	324,669	191,698 (9,807.11)	1,745	81,156	1,190,574	80 (37)

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はない。
 2 上記の金額には消費税等が含まれていない。
 3 本社工場の帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品および建設仮勘定である。
 4 従業員数の()は臨時従業員の年間平均人員を外書している。
 5 当社は、自動制御機器製造販売事業の単一セグメントのため、セグメント別の記載は省略している。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記すべきものはありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記すべきものはありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,200,000
計	19,200,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2023年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,800,000	4,800,000	非上場・非登録	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。当社は単元株制度を採用しておりません。
計	4,800,000	4,800,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
1977年6月1日		4,800,000		240,000		9,416

(5) 【所有者別状況】

2023年3月31日現在

区分	株式の状況							計
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	
					個人以外	個人		
株主数 (人)		2	6	17		1	512	538
所有株式数 (株)		241,500	2,350	3,718,201		6,750	831,199	4,800,000
所有株式数 の割合(%)		5.03	0.05	77.46		0.14	17.32	100.00

(6) 【大株主の状況】

2023年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
菱華産業(株)	東京都中央区日本橋室町4-6-2	2,460	51.26
菱華企業(株)	東京都中央区日本橋室町4-6-2	892	18.59
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	240	5.00
(株)久世ペローズ工業所	石川県河北郡津幡町字南中条174-1	172	3.59
三菱重工サーマルシステムズ(株)	東京都千代田区丸の内3-2-3	100	2.08
林 俊 夫	東京都大田区	74	1.55
須 田 ふき子	東京都世田谷区	65	1.35
津 末 陽 一	東京都杉並区	65	1.35
弘 世 光 正	長野県松本市	64	1.33
弘 世 健 二	東京都杉並区	63	1.31
弘 世 純 三	埼玉県所沢市	63	1.31
計		4,259	88.73

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,800,000	4,800,000	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
発行済株式総数	4,800,000		
総株主の議決権		4,800,000	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、株主への利益配分を重要な経営課題の一つと認識しており、経営基盤の強化と財務体質の健全性を勘案しつつ、安定した配当の継続を重視することを基本方針としてまいりました。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を行っており、配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度についても、安定配当継続の方針に則り年間配当1株につき3円の配当を実施することに決定しました。

また、内部留保金につきましては、多様化する市場ニーズに応えるため、製品開発の強化、生産体制の再構築及び新たな事業展開などに有効投資してまいります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2023年6月26日 定時株主総会決議	14,400	3

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

(1)コーポレート・ガバナンスの体制

当社は、迅速かつ透明性のある公正な経営の実現を目指し、以下のような機関やリスク管理体制を構築しております。

従来からの監査役制度を維持し、監査役1名で取締役会その他経営に関する重要な会議に出席、重要な書類等の閲覧、監査を行ない、内部統制の整備を図っております。

取締役会については、定例取締役会のほか、必要に応じて機動的に臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項やその他重要事項を決定するとともに、取締役の業務執行の状況を逐次監督する機関と位置づけております。

また、公認会計士の監査は、有限責任 あずさ監査法人を選任し、監査契約を結び、正しい経営情報を提供し、公正不偏な立場から監査が実施される環境を整備しております。当社は、企業経営活動全般にわたる内部監査機能のさらなる充実に向けて、内部体制の整備を検討してまいります。

(2)役員報酬の内容

社内取締役の報酬総額 27,320千円

社内監査役の報酬総額 300千円

(注1) 上記以外に使用人兼務取締役の使用人給与相当額(賞与を含む)6,600千円があります。

(注2) 上記報酬等の額には、当事業年度中に費用処理した社内取締役ならびに社内監査役に対する役員退職慰労引当金の額を含めております。

(注3) 当社は社内取締役および社内監査役に対して業績連動報酬等および非金銭報酬等は支給しておりません。

(3)取締役の定数

当社は、取締役3名以上を置くこととする旨を定款で定めております。

(4)取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款で定めております。

(5)株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議の要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会の特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(6)取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、取締役会の決議によって、取締役及び監査役(取締役及び監査役であった者を含む。)の会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる旨を定款に定めております。

(7)役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社の取締役および監査役は、当社の親会社である菱華産業株式会社が保険会社と締結した、同社および同子会社の取締役、監査役を被保険者とする、会社法第430条の3第1項に基づく役員等賠償責任保険契約の被保険者です。当該保険契約においては、被保険者が職務の執行に関し負担することになる法律上の損害賠償金や訴訟費用等の損害を填補することとしております。ただし法令違反の行為のあることを認識して行った行為に起因して生じた損害は填補されないなど、一定の免責事由があります。保険料は全額、菱華産業株式会社および同子会社が負担しております。

(8)取締役会の活動状況

取締役会は当事業年度において9回開催され、各取締役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
藤塚 英明	9回	9回
齊木 光博	9回	9回
熊谷 伸介	9回	9回
土橋 明	9回	9回
小野 純一	2回	2回

取締役会における具体的な検討内容としては、取締役会付議事項に該当する議案以外に、各部門の重要施策の進捗状況・課題等について協議しております。

当事業年度は経営計画の達成に向けて進捗確認を行いながら適時必要な対応を中心に協議すると共に、取締役候補者の決定、次年度経営計画の承認等の重要事項の承認をしております。

(2) 【役員の状況】

男性5名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	藤 塚 英 明	1955年9月1日生	2007年6月 (株)三菱東京UFJ銀行執行役員総務部長 2010年6月 千歳興産(株)取締役社長 2012年4月 オリンパス(株)取締役専務執行役員 2015年6月 (株)丸井グループ常勤監査役 2020年7月 新菱冷熱工業(株)取締役(現任) 2021年6月 菱華工業(株)代表取締役社長(現任) 2021年6月 (株)菱華テック代表取締役社長(現任) 2021年6月 当社代表取締役社長現在に至る 2021年6月 菱華産業(株)代表取締役社長(現任)	(注)1	20
常務取締役 工場長	齊 木 光 博	1965年3月17日生	1987年4月 当社入社 2006年9月 当社技術部長 2010年6月 当社製造部長 2011年2月 当社取締役(総務部、経理部、企画部、営業部、大阪支店、生産管理部、製造部、技術部、品質保証室担当、主に製造部担当とし製造部長委嘱) 2013年12月 当社取締役(製造部、技術部担当とし技術部長委嘱) 2014年6月 当社取締役(副工場長、製造部、技術部、生産管理部、品質保証室担当とし技術部長委嘱) 2014年12月 当社取締役(副工場長、製造部、技術部、品質保証部担当) 2015年12月 当社取締役(副工場長、製造部、技術部担当) 2016年7月 当社取締役(副工場長、営業技術部担当) 2017年4月 当社常務取締役(工場長、総括、営業技術部及び工場長室担当) 2018年7月 当社常務取締役(工場長、総括及び工場長室担当) 2019年4月 当社常務取締役(工場長、総括、工場長室及び財務企画部担当) 2019年6月 当社常務取締役(工場長、総括、財務企画部及び総務部担当) 2021年12月 当社常務取締役(工場長、総括、財務企画部担当)現在に至る	(注)1	11
取締役 副工場長	熊 谷 伸 介	1966年11月18日生	1989年4月 当社入社 2014年12月 当社営業部長 2016年7月 当社営業技術部統括マネージャー 2017年6月 当社取締役(営業技術部副担当とし営業技術部統括マネージャー委嘱) 2018年7月 当社取締役(営業技術部担当とし営業技術部統括マネージャー委嘱) 2019年6月 当社取締役(副工場長、営業技術部及び製造部担当) 2020年7月 当社取締役(副工場長、営業技術部及び製造部担当とし製造部統括マネージャー委嘱)現在に至る	(注)1	5

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	土 橋 明	1971年7月21日生	1995年4月 2018年7月 2021年6月	当社入社 当社品質保証部統括マネージャー 当社取締役(品質保証部担当とし品質保証部統括マネージャー委嘱)現在に至る	(注)1	5
監査役	三 木 利 夫	1963年2月25日生	2013年2月 2014年3月 2014年6月 2014年6月 2015年2月 2015年4月 2015年5月 2015年6月 2017年4月 2021年6月	(株)三菱東京UFJ銀行監査部与信監査室 上席調査役 菱華産業(株)企画部長兼関連事業室長 菱華工業(株)監査役(現任) (株)菱華テック監査役(現任) 当社監査役現在に至る 菱華産業(株)取締役企画部長 菱華企業(株)取締役(現任) Ryoka(Malaysia)Sdn.Bhd. Director(現任) 菱華産業(株)常務取締役企画部長 菱華産業(株)専務取締役企画部長(現任)	(注)2	
計						41

- (注) 1 取締役の任期は、2023年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2 監査役の任期は、2022年3月期に係る定時株主総会終結の時から2026年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、監査役1名で取締役会その他の重要な会議に出席して取締役の業務執行状況を監視しており、随時、取締役等から受ける報告を通じて業務執行状況を監査しております。

また、監査役は、監査人より会計監査の手続きならびに監査結果の概要について報告を受け、意見交換を行っております。

なお、監査役三木利夫氏は金融機関における長年の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

内部監査の状況

当社は内部監査組織を設けておりませんが、当社経理部門が定期的に現金実査を行う他、ワークフローシステムにより稟議書等の閲覧を行っております。また、監査人が行う各種実査や棚卸確認に当社経理部門も立会う等の連携を行っております。

会計監査の状況

会計監査については、有限責任 あずさ監査法人を選任しております。

当社の業務を執行した公認会計士の氏名は以下のとおりであります。なお、継続関与年数については全員7年以内であるため記載を省略しております。

指定有限責任社員 業務執行社員 川村 敦

指定有限責任社員 業務執行社員 富永 淳浩

また、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士2名、その他5名であります。

監査人は、監査役と必要に応じ個々に打合せを行い、相互連携の充実を図っております。期初は各々が監査方針、監査計画等の報告を行い、情報の共有化を図り、期中及び期末においては、各々の監査結果を報告し、意見の交換を行っております。

(継続監査期間)

54年間

(監査法人の選定方針と理由)

当社は、監査法人の沿革、監査実績、独立性や不正リスク対応を含めた品質管理体制、チーム編成を含む監査の実施体制、監査報酬の適正性等を勘案し選定することとしております。

(監査役による監査法人の評価)

当社の監査役は日本監査役協会が公表する実務指針を踏まえて監査法人に対する評価を行っております。

監査報酬の内容等

(監査公認会計士等に対する報酬)

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
12,000		12,000	

(監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬)

該当事項はありません。

(その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容)

該当事項はありません。

(監査報酬の決定方針)

該当事項はありません。

(4) 【役員の報酬等】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

なお、役員報酬の内容につきましては、「4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」に記載しております。

(5) 【株式の保有状況】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社は子会社がないため、連結財務諸表を作成しておりません。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,271,976	2,314,924
受取手形	91,796	72,543
売掛金	269,732	279,180
電子記録債権	365,152	294,420
有価証券	699,997	699,966
商品及び製品	91,566	162,891
仕掛品	68,568	71,601
原材料及び貯蔵品	314,070	304,118
前渡金		1,540
前払費用	5,684	6,057
その他	1 28,229	1 27,430
貸倒引当金	530	480
流動資産合計	4,206,244	4,234,195
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,798,052	1,810,444
減価償却累計額	1,254,344	1,309,034
建物(純額)	543,708	501,409
構築物	213,056	213,056
減価償却累計額	116,670	123,162
構築物(純額)	96,385	89,893
機械及び装置	2,110,051	2,089,733
減価償却累計額	1,708,125	1,749,960
機械及び装置(純額)	401,926	339,772
車両運搬具	4,566	4,566
減価償却累計額	4,492	4,566
車両運搬具(純額)	73	0
工具、器具及び備品	483,416	480,616
減価償却累計額	416,079	418,319
工具、器具及び備品(純額)	67,337	62,297
土地	191,698	191,698
リース資産	84,833	84,833
減価償却累計額	78,557	83,087
リース資産(純額)	6,275	1,745
建設仮勘定	2,714	18,858
有形固定資産合計	1,310,120	1,205,677
無形固定資産		
電話加入権	1,155	1,155
ソフトウェア	10,111	8,481
リース資産	6,561	3,648
無形固定資産合計	17,828	13,285

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	359,507	349,856
出資金	10	10
その他	1,006	1,006
投資その他の資産合計	360,523	350,872
固定資産合計	1,688,471	1,569,835
資産合計	5,894,716	5,804,030
負債の部		
流動負債		
支払手形	26,108	28,226
買掛金	132,946	95,267
電子記録債務	198,046	159,486
リース債務	8,082	4,519
未払金	18,291	19,019
未払事業所税	4,935	5,034
未払法人税等	14,473	5,122
未払費用	48,758	49,257
預り金	3,326	3,991
賞与引当金	36,000	30,000
設備関係支払手形	8,309	3,713
設備関係電子記録債務	3,537	15,157
流動負債合計	502,816	418,796
固定負債		
リース債務	5,825	1,306
役員退職慰労引当金	22,702	16,794
繰延税金負債	60,814	54,055
固定負債合計	89,342	72,155
負債合計	592,158	490,952
純資産の部		
株主資本		
資本金	240,000	240,000
資本剰余金		
資本準備金	9,416	9,416
資本剰余金合計	9,416	9,416
利益剰余金		
利益準備金	60,000	60,000
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	53,361	43,672
別途積立金	2,360,000	2,360,000
繰越利益剰余金	2,417,406	2,443,662
利益剰余金合計	4,890,767	4,907,334
株主資本合計	5,140,184	5,156,751
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	162,373	156,326
評価・換算差額等合計	162,373	156,326
純資産合計	5,302,557	5,313,078
負債純資産合計	5,894,716	5,804,030

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	当事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
売上高		
製品売上高	2,181,466	2,163,285
商品売上高	143,172	176,235
売上高合計	2,324,638	2,339,521
売上原価		
製品期首棚卸高	122,242	90,738
当期製品製造原価	3 1,846,492	3 1,947,296
合計	1,968,735	2,038,034
製品他勘定振替高	4 2,652	4 1,803
製品期末棚卸高	90,738	162,866
製品売上原価	1,880,648	1,876,972
商品期首棚卸高	107	828
当期商品仕入高	84,640	100,874
合計	84,748	101,703
商品期末棚卸高	828	25
商品売上原価	83,920	101,677
売上原価合計	1 1,964,569	1 1,978,650
売上総利益	360,069	360,871
販売費及び一般管理費	2 329,311	2 336,405
営業利益	30,758	24,466
営業外収益		
受取利息	1	1
有価証券利息	49	26
受取配当金	9,630	10,577
受取賃貸料	3,359	3,324
助成金収入	295	
その他	2,831	3,006
営業外収益合計	16,168	16,937
営業外費用		
賃貸費用	1,788	1,788
障害者雇用納付金	600	1,200
その他	64	3
営業外費用合計	2,452	2,991
経常利益	44,474	38,411
特別利益		
固定資産売却益	5 199	5 139
特別利益合計	199	139
特別損失		
固定資産除却損	6 142	6 502
特別損失合計	142	502
税引前当期純利益	44,531	38,049
法人税、住民税及び事業税	11,206	7,727
法人税等調整額	8,582	645
法人税等合計	2,624	7,082
当期純利益	41,906	30,967

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		1,083,823	58.6	1,134,191	57.9
労務費		393,014	21.2	418,961	21.4
経費	1	374,016	20.2	404,648	20.7
当期総製造費用		1,850,853	100.0	1,957,801	100.0
仕掛品期首棚卸高		41,895		68,568	
他勘定より振替高	2	712,452		725,596	
合計		2,605,201		2,751,966	
他勘定へ振替高	3	690,140		733,068	
仕掛品期末棚卸高		68,568		71,601	
当期製品製造原価		1,846,492		1,947,296	

(脚注)

前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)																								
<p>○ 原価計算の方法 標準原価にもとづく組別総合原価計算法、原価差額の発生額は製品、原材料、仕掛品及び売上原価に配賦している。</p> <p>1 主な内訳は、次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>減価償却費</td> <td>176,243千円</td> </tr> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>14,364</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>18,611</td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td>9,336</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>30,765</td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td>34,065</td> </tr> </table> <p>2 自社製作部品からの振替高である。</p> <p>3 自社製作固定資産及び自社製作部品への振替高である。</p>	減価償却費	176,243千円	旅費交通費	14,364	研究開発費	18,611	賃借料	9,336	消耗品費	30,765	修繕費	34,065	<p>○ 原価計算の方法 同左</p> <p>1 主な内訳は、次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>減価償却費</td> <td>167,024千円</td> </tr> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>15,338</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>25,965</td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td>10,405</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>34,324</td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td>37,539</td> </tr> </table> <p>2 自社製作部品からの振替高である。</p> <p>3 自社製作固定資産及び自社製作部品への振替高である。</p>	減価償却費	167,024千円	旅費交通費	15,338	研究開発費	25,965	賃借料	10,405	消耗品費	34,324	修繕費	37,539
減価償却費	176,243千円																								
旅費交通費	14,364																								
研究開発費	18,611																								
賃借料	9,336																								
消耗品費	30,765																								
修繕費	34,065																								
減価償却費	167,024千円																								
旅費交通費	15,338																								
研究開発費	25,965																								
賃借料	10,405																								
消耗品費	34,324																								
修繕費	37,539																								

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金				
				固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	240,000	9,416	60,000	63,236	2,360,000	2,380,024	4,863,260	5,112,677
当期変動額								
剰余金の配当						14,400	14,400	14,400
固定資産圧縮積立金の取崩				9,875		9,875		
当期純利益						41,906	41,906	41,906
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計				9,875		37,382	27,506	27,506
当期末残高	240,000	9,416	60,000	53,361	2,360,000	2,417,406	4,890,767	5,140,184

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	175,807	175,807	5,288,484
当期変動額			
剰余金の配当			14,400
固定資産圧縮積立金の取崩			
当期純利益			41,906
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	13,434	13,434	13,434
当期変動額合計	13,434	13,434	14,072
当期末残高	162,373	162,373	5,302,557

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金				
				固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	240,000	9,416	60,000	53,361	2,360,000	2,417,406	4,890,767	5,140,184
当期変動額								
剰余金の配当						14,400	14,400	14,400
固定資産圧縮積立金の取崩				9,689		9,689		
当期純利益						30,967	30,967	30,967
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計				9,689		26,256	16,567	16,567
当期末残高	240,000	9,416	60,000	43,672	2,360,000	2,443,662	4,907,334	5,156,751

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	162,373	162,373	5,302,557
当期変動額			
剰余金の配当			14,400
固定資産圧縮積立金の取崩			
当期純利益			30,967
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	6,046	6,046	6,046
当期変動額合計	6,046	6,046	10,520
当期末残高	156,326	156,326	5,313,078

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	当事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	44,531	38,049
減価償却費	192,431	182,634
有形固定資産売却益	199	139
有形固定資産除却損	142	502
貸倒引当金の増減額（ は減少）	2,560	50
賞与引当金の増減額（ は減少）	12,000	6,000
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	1,704	5,908
受取利息及び受取配当金	9,681	10,605
助成金収入	295	
売上債権の増減額（ は増加）	83,414	80,536
棚卸資産の増減額（ は増加）	63,319	64,405
未収入金の増減額（ は増加）	7,132	1,080
その他の流動資産の増減額（ は増加）	656	2,195
仕入債務の増減額（ は減少）	126,284	74,120
未払費用の増減額（ は減少）	7,125	498
未払金の増減額（ は減少）	13,201	3,080
その他の流動負債の増減額（ は減少）	122	764
その他	5,673	1,810
小計	251,536	139,370
利息及び配当金の受取額	9,660	10,637
助成金の受取額	295	
法人税等の還付額	4,196	
法人税等の支払額	1,831	15,536
営業活動によるキャッシュ・フロー	263,857	134,471
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	69,307	66,685
有形固定資産の売却による収入	200	140
有価証券の取得による支出	499,970	999,941
有価証券の償還による収入	499,970	999,941
投資有価証券の取得による支出	2,484	2,508
定期預金の払戻による収入	501	501
定期預金の預入による支出	501	501
投資活動によるキャッシュ・フロー	71,591	69,054
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	9,899	8,082
配当金の支払額	14,425	14,386
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,324	22,468
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	167,941	42,948
現金及び現金同等物の期首残高	2,303,532	2,471,474
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,471,474	1 2,514,422

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法に基づく原価法

2 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品は、総平均法に基づく原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法で償却を行っています。なお、主な耐用年数については以下のとおりであります。

建物	31年
構築物	45年
機械及び装置	11年
車両運搬具	5年
工具、器具及び備品	6年

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額にもとづく当期の費用負担額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職金の支給に充てるため、役員退職慰労金支給内規に基づき期末要支給額を計上しております。

5 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する履行義務の内容及び履行義務を充足する通常の時点は以下のとおりであります。

当社は自動制御機器の製造、販売を主たる事業としており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

当社は国内の顧客に商品又は製品を販売しており、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準第30号 2021年3月26日)第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

取引の対価は履行義務を充足してから1年以内に受領しており、重要な金融要素が含まれておりません。

6 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りは、財務諸表作成時に入手可能な情報に基づいて合理的な金額を算出しております。当事業年度の財務諸表に計上した会計上の見積り項目のうち、翌事業年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目は以下の通りです。

1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産	33,600	30,085
繰延税金負債	94,414	84,140
繰延税金負債の純額	60,814	54,055

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、繰延税金資産について将来の課税所得の合理的な見積りを考慮して回収可能性を判断しております。当該将来課税所得の見積りは、過去の実績や市場環境を考慮した翌事業年度の予算を基礎としております。

当該施策の予測は、顧客の事業環境の変動等により想定よりも受注が減少するといった不確実性を伴っているため、翌事業年度の実際に発生した課税所得金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の繰延税金資産の金額に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 (前事業年度)

流動資産のその他(未収入金)には売掛債権譲渡分4,955千円が含まれております。

(当事業年度)

流動資産のその他(未収入金)には売掛債権譲渡分3,805千円が含まれております。

(損益計算書関係)

1 期末棚卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上原価	4,954千円	5,049千円

2 販売費及び一般管理費の主なもの(は戻入額)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
貸倒引当金繰入額	2,560千円	50千円
賞与引当金繰入額	28,000	20,758
役員退職慰労引当金繰入額	2,704	3,350
給料手当	110,312	117,157
雑給	7,229	10,407
減価償却費	15,888	15,309
支払手数料	42,650	42,305

おおよその割合

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
販売費	58%	58%
一般管理費	42	42

3 当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期製造費用	18,611千円	25,965千円

4 試験研究のための振替であります。

5 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
機械及び装置	199千円	139千円
計	199	139

6 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物	千円	75千円
機械及び装置	48	427
工具、器具及び備品	94	
計	142	502

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	4,800,000			4,800,000

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月23日 定時株主総会	普通株式	14,400	3	2021年3月31日	2021年6月24日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	14,400	3	2022年3月31日	2022年6月28日

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	4,800,000			4,800,000

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月27日 定時株主総会	普通株式	14,400	3	2022年3月31日	2022年6月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	14,400	3	2023年3月31日	2023年6月27日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
現金及び預金	2,271,976千円	2,314,924千円
預入期間3か月超の定期預金	501千円	501千円
合同運用指定金銭信託	200,000千円	200,000千円
現金及び現金同等物	2,471,474千円	2,514,422千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの)

リース資産の内容

有形固定資産

機械及び装置

工具、器具及び備品

無形固定資産

ソフトウェア

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、運転資金、設備投資とも自己資金の範囲内での繰り回しを基本方針としております。余資については、安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。有価証券はコマーシャルペーパー及び合同運用指定金銭信託であり、発行体の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に取引先企業との業務に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、全て1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権について、営業部、大阪支店が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、投資有価証券について、定期的な時価や発行体の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に注視しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格が無い場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定において変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	499,997	499,985	12
その他有価証券(*2)	323,389	323,389	
資産計	823,387	823,374	12

(*1) 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「電子記録債権」、「その他有価証券(合同運用指定金銭信託)」、「支払手形」、「買掛金」、「電子記録債務」については、現金であること、若しくは短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「(1)有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前事業年度(千円)
非上場株式	36,117

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	499,966	499,930	36
その他有価証券(*2)	312,284	312,284	
資産計	812,250	812,214	36

(*1) 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「電子記録債権」、「その他有価証券(合同運用指定金銭信託)」、「支払手形」、「買掛金」、「電子記録債務」については、現金であること、若しくは短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「(1)有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当事業年度(千円)
非上場株式	37,572

(注1)金融商品の決算日後の償還及び返済予定表

前事業年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1) 現金及び預金	2,271,976			
(2) 受取手形	91,796			
(3) 売掛金	269,732			
(4) 電子記録債権	365,152			
(5) 有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	499,997			
合同運用指定金銭信託	200,000			
合計	3,698,654			

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1) 現金及び預金	2,314,924			
(2) 受取手形	72,543			
(3) 売掛金	279,180			
(4) 電子記録債権	294,420			
(5) 有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	500,000			
合同運用指定金銭信託	200,000			
合計	3,661,068			

(注2)リース債務の決算日後の返済予定額

前事業年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債務	8,082	4,519	1,306			

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債務	4,519	1,306				

3 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

前事業年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券 株式	323,389			323,389
資産計	323,389			323,389

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券 株式				
	312,284			312,284
資産計	312,284			312,284

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前事業年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 コマーシャルペーパー				
		499,985		499,985
資産計		499,985		499,985

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 コマーシャルペーパー				
		499,930		499,930
資産計		499,930		499,930

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。また、当社が保有しているコマーシャルペーパーは、債券の将来発生するキャッシュ・フローと満期までの期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前事業年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの コマーシャルペーパー			
小計			
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの コマーシャルペーパー	499,997	499,985	12
小計	499,997	499,985	12
合計	499,997	499,985	12

当事業年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの コマーシャルペーパー			
小計			
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの コマーシャルペーパー	499,966	499,930	36
小計	499,966	499,930	36
合計	499,966	499,930	36

2 その他有価証券

前事業年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	269,778	21,619	248,159
小計	269,778	21,619	248,159
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	53,611	59,663	6,052
合同運用指定金銭信託	200,000	200,000	
小計	253,611	259,663	6,052
合計	523,389	281,282	242,107

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	312,284	83,791	228,492
小計	312,284	83,791	228,492
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式			
合同運用指定金銭信託	200,000	200,000	
小計	200,000	200,000	
合計	512,284	283,791	228,492

(退職給付関係)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度(中退共)を採用しております。

2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、4,685千円でありました。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度(中退共)を採用しております。

2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、4,835千円でありました。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
(繰延税金資産)		
棚卸資産	6,667千円	8,538千円
貸倒引当金	159	144
賞与引当金	10,814	9,012
未払事業税	1,984	1,460
繰越欠損金(注)	36,544	30,023
役員退職慰労引当金	6,819	5,044
投資有価証券評価損	7,206	7,206
未払社会保険料否認額	1,604	1,527
固定資産税否認額	1,235	1,186
監査報酬否認額	540	540
繰延税金資産小計	73,576	64,683
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	28,692	22,944
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	11,283	11,654
評価性引当額小計	39,976	34,598
繰延税金資産合計	33,600	30,085
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	22,912	18,752
その他有価証券評価差額金	71,501	65,388
繰延税金負債合計	94,414	84,140
繰延税金負債の純額	60,814	54,055

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度(2022年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)			14,879			21,665	36,544千円
評価性引当額			7,027			21,665	28,692 "
繰延税金資産			7,852				7,852 "

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当事業年度(2023年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)		8,358				21,665	30,023千円
評価性引当額		1,279				21,665	22,944 "
繰延税金資産		7,079					7,079 "

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.0%	30.0%
(調整)		
住民税均等割等	2.1%	2.5%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.8%	0.9%
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.0%	0.3%
評価性引当額の増減	30.0%	14.1%
その他	0.6%	0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	5.9%	18.6%

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は自動制御機器製造販売事業の単一セグメントであり、主要な顧客との契約から生じる収益を分解した情報は以下のとおりであります。

(単位：千円)

品名	前事業年度	当事業年度
	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
電磁弁	1,616,715	1,630,783
膨張弁	8,391	7,263
電動弁	138,714	139,049
手動弁	131,691	111,604
自動弁	203,651	195,052
その他	225,473	255,767
合計	2,324,638	2,339,521

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「(重要な会計方針) 5. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は自動制御機器製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

損益計算書の売上高は、全て本邦の外部顧客への売上高であるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

貸借対照表の有形固定資産の金額は、全て本邦に所在しているため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日立ジョンソンコントロールズ空調(株)	263,456	自動制御機器製造販売事業

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

損益計算書の売上高は、全て本邦の外部顧客への売上高であるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

貸借対照表の有形固定資産の金額は、全て本邦に所在しているため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日立ジョンソンコントロールズ空調(株)	310,585	自動制御機器製造販売事業
(株)カントー	244,418	自動制御機器製造販売事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
同一の親会社を持つ会社	菱華マレーシア㈱	マレーシア スランゴール州	8,000 (千マレーシアリンギット)	製造業	所有 直接 12.50	出資	配当金の受取	3,875		

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
同一の親会社を持つ会社	菱華マレーシア㈱	マレーシア スランゴール州	8,000 (千マレーシアリンギット)	製造業	所有 直接 12.50	出資	配当金の受取	4,548		

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

菱華産業株式会社(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	1,104円69銭	1,106円89銭
1株当たり当期純利益	8円73銭	6円45銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	41,906	30,967
普通株式に係る当期純利益(千円)	41,906	30,967
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳		
普通株式の期中平均株式数(株)	4,800,000	4,800,000

(重要な後発事象)

(資金の貸付)

当社は、2023年5月8日開催の取締役会において、親会社である菱華産業株式会社に対し、当社より資金の貸付を行うことを決議し、実行しました。

資金用途 建設資金

貸付金額 800,000千円

貸付期間 2023年5月25日～2023年12月29日

返済方法 期限一括返済

貸付利率 3ヶ月TIBOR + 0.5%

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
投資有価証券	その他有価証券	アズビル(株)	216,600
		三菱重工業(株)	67,442
		菱華マレーシア(株)	35,871
		(株)日立製作所	20,305
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	7,936
		菱華香港(株)	1,701
計		1,373,401	349,856

【債券】

銘柄		券面総額(千円)	貸借対照表計上額(千円)
有価証券	満期保有目的の債券	三菱HCキャピタル(株) コマーシャルペーパー	499,966
計		500,000	499,966

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等	貸借対照表計上額(千円)
有価証券	その他有価証券	合同運用指定金銭信託 三菱UFJ信託銀行(株)	200,000
計			200,000

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	1,798,052	13,310	917	1,810,444	1,309,034	55,532	501,409
構築物	213,056			213,056	123,162	6,491	89,893
機械及び装置	2,110,051	27,526	47,844	2,089,733	1,749,960	89,253	339,772
車両運搬具	4,566			4,566	4,566	73	0
工具、器具及び備品	483,416	20,062	22,863	480,616	418,319	20,910	62,297
土地	191,698			191,698			191,698
リース資産	84,833			84,833	83,087	4,529	1,745
建設仮勘定	2,714	23,875	7,731	18,858			18,858
有形固定資産計	4,888,390	84,774	79,357	4,893,808	3,688,130	176,791	1,205,677
無形固定資産							
電話加入権				1,155			1,155
ソフトウェア				15,298	6,816	2,929	8,481
リース資産				44,167	40,518	2,913	3,648
無形固定資産計				60,620	47,335	5,842	13,285

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

 建物 本社工場屋内改修工事 7,270 千円
 機械及び装置 熱風循環乾燥機 4,217
 工具、器具及び備品 金型 6,240

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

 機械及び装置 ターニングセンタ 41,823 千円
 工具、器具及び備品 金型 21,773

3. 無形固定資産については、資産総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	8,082	4,519		
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,825	1,306		2024年4月1日～ 2024年11月30日
合計	13,908	5,825		

(注) 1. リース債務については、リース料総額に含まれる利子相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表上に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	1,306			

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	530	480		530	480
賞与引当金	36,000	30,000	34,147	1,853	30,000
役員退職慰労引当金	22,702	3,350	9,258		16,794

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額が530千円であります。また、損益計算書の表示においては、繰入額と戻入額を相殺して表示しております。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	708
預金	
当座預金	1,451,245
普通預金	15,467
通知預金	800,000
定期預金	47,501
計	2,314,215
合計	2,314,924

受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)カントー	49,570
アベテック(株)	6,074
(株)ネスター	4,816
(株)大広製作所	3,589
エヌエスジー(株)	2,818
その他	5,673
合計	72,543

期日別内訳

期日	金額(千円)
2023年4月満期	22,164
5月満期	38,992
6月満期	4,421
7月満期	6,503
8月以降満期	461
合計	72,543

売掛金
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)カントー	30,468
日立ジョンソンコントロールズ空調(株)	29,336
プロステップ(株)	20,104
(株)前川製作所	17,819
タカラベルモント(株) 大阪工場	17,809
その他	163,641
合計	279,180

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円) A	当期発生高 (千円) B	当期回収高 (千円) C	当期末残高 (千円) D	回収率(%) $\frac{C}{A+B} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{A+D}{\frac{2}{B}}$ 365
269,732	2,573,473	2,564,025	279,180	90.2%	38.9

電子記録債権
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)前川製作所	47,531
(株)ファインシンター	44,337
(株)カントー	39,783
東プレ(株)	39,233
タカラベルモント(株) 大阪工場	37,299
その他	86,234
合計	294,420

期日別内訳

期日	金額(千円)
2023年4月満期	49,853
5月満期	84,055
6月満期	93,495
7月満期	66,765
8月以降満期	251
合計	294,420

商品及び製品

品名	金額(千円)
電磁弁	116,111
膨張弁	355
温湿度調節器	4
電動弁	21,703
手動弁	8,659
自動弁	15,306
その他	749
合計	162,891

仕掛品

品名	金額(千円)
主要材料(主として黄銅棒)	41,299
部分品(主として鍛造品ボディ)	30,302
合計	71,601

原材料及び貯蔵品

品名	金額(千円)
主要材料(主として黄銅棒)	68,408
部分品(主として鍛造品ボディ)	199,003
その他	36,706
合計	304,118

支払手形
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)三芝製作所	11,375
東京エンブラ商事(株)	4,114
(株)ニッシリ	2,527
ニッパ(株)	2,142
(株)サンヨー	1,827
その他	6,239
合計	28,226

期日別内訳

期日	金額(千円)
2023年4月満期	6,831
5月満期	10,349
6月満期	6,742
7月満期	3,771
8月以降満期	532
合計	28,226

買掛金
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
片岡金属(株)	7,108
大成エレクトロニクス(株)	6,918
(株)三芝製作所	5,847
(株)大森精工	5,567
日京工業(株)	5,192
その他	64,632
合計	95,267

電子記録債務
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
中信電機(株)	30,598
大丸工業(株)	25,193
(株)古河製作所	11,285
渡忠機械(株)	6,928
(株)藤田製作所	5,985
その他	79,496
合計	159,486

期日別内訳

期日	金額(千円)
2023年4月満期	32,072
5月満期	40,566
6月満期	40,818
7月満期	33,115
8月以降満期	12,914
合計	159,486

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	1株券 10株券 50株券 100株券 500株券 1,000株券 但し 100株未満の株式についてはその数を示した株券を発行できる。
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	定めなし
株式の名義書換え	
取扱場所	神奈川県藤沢市小塚126番地 当社財務企画部
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	定めなし
公告掲載方法	官報に掲載する。
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は非上場会社であるため、該当事項はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第75期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)2022年6月29日関東財務局長に提出。

(2) 半期報告書

事業年度 第76期中(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)2022年12月27日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2023年 6月26日

日電工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
横浜事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 村 敦

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 富 永 淳 浩

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日電工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第76期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日電工業株式会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。